

2019年10月23日

関係機関各位

児童発達支援センター うめだ・あけぼの学園  
園長 加藤 正仁

### 2019年度 実践研究発表ご案内

爽秋の候、皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

うめだ・あけぼの学園では、発達に関心する子の育ちを考える夏季セミナーをこれまで毎年実施してまいりました。今年度からは夏季セミナーに代わる情報発信として、実践研究発表を開催いたします。日々の臨床における問題意識から、下記の5つの掘り下げるテーマを設定いたしました。年間を通して、テーマ別に職員が各自の実践を持ち寄り、その成果やさらなる工夫の方策をチームで整理検討してまいりました。今回はその経過と実践をまとめて発表いたします。うめだ・あけぼの学園の実践に触れていただき、みなさんの療育のヒントにさせていただけたらと思います。関係諸機関の皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

本年度のテーマ（詳細は裏面をご参照ください）

- (1) 環境の構造化による主体的活動の保障
- (2) AACの日常的活用によるコミュニケーション支援
- (3) 運動活動の有効活用～毎日通園室の運動活動を中心に考える～
- (4) 偏食のある子どもへの支援～背景を考え対応を探る～
- (5) 歌・手遊びを通して行うトータルな発達支援

日時：2019年11月6日（水）

場所：うめだ・あけぼの学園 ホール

東京都足立区梅田 7-12-15（東武スカイツリーライン梅島駅 徒歩6分）

地図は <http://umeda-akebono.or.jp/access/> をご覧ください

日程：13:45 受付

14:00 園長挨拶・講師紹介・趣旨説明

14:10 発表（前半）

15:10 休憩

15:20 発表（後半）

16:00 全体質疑応答

16:10 講師講評

16:30 まとめ

16:35 終了

講師：厚生労働省 社会援護局 障害福祉専門官 鈴木久也氏

<ご参加にあたってのお願い>

ご来園は公共交通機関をご利用ください。自転車は駐車スペースがございません。

<参加費>

無料

<問い合わせ先>

うめだ・あけぼの学園 電話番号：03-3848-1190 メール：shimada@umeda-akebono.or.jp

## <申し込み方法>

グーグルフォームより、11月1日までにお申し込みください。

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScgpDexmgmNo0q4oFux6Tav0Z0ln5bAAYvAy\\_cWE5iQ11cKSw/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScgpDexmgmNo0q4oFux6Tav0Z0ln5bAAYvAy_cWE5iQ11cKSw/viewform?usp=sf_link)



## テーマ詳細

### (1) 環境の構造化による主体的活動の保障

うめだ・あけぼの学園では、モンテッソーリ教育法に基づいた発達支援を行なっています。毎日通園室では日常生活動作、文字・数の学習など様々な力の育ちや、気付きを支える為に、モンテッソーリ教具を中心とした活動空間を整え、構造化された環境を整備しています。このような環境整備に加え、TEACHプログラムで大事にされる構造化を行い、個の障害特性や行動に合わせた支援を行なってまいりました。特に「物理的な構造化」や「わかりやすい関わり」の実践について報告いたします。

### (2) AACの日常的活用によるコミュニケーション支援

AAC(拡大代替コミュニケーション)は、技術論にとどまるものではなく、全てのひとの自由なコミュニケーションを保障するという人権保障に基づく理論・技術論です。この視点に立って、学園の発達支援においてどのように日常的にかつそれぞれの子どもに適したAACを使っていくことが必要かを、今回は絵カードを活用した実践を中心に検討し、ここまでの取り組みをまとめてきました。

### (3) 運動活動の有効活用～毎日通園室の運動活動を中心に考える～

乳幼児期からたどるところの発達の基盤となる、日常的な生活の中での運動遊びは、運動発達の状態が多様となる子どもたちの支援においては、この日常的な運動遊びの中により専門的視点を加味して活動と援助を工夫する必要があります。PT、OTの専門的視点を組み入れながら、発達支援における「運動遊びプログラム」を構築することを長期的な目標とし、これまでの実践の成果や今後の課題をまとめてきました。具体的には子どもの運動発達と遊具の目的の理解、運動を育てる介助の仕方、個々の遊具を組み合わせた活動の展開方法について検討してきました。

### (4) 偏食のある子どもへの支援～背景を考え対応を探る～

発達支援を必要とする子どもたちの多くが食の偏りを持っていますが、その原因はひとつではなく、また複数の要因が絡んでいることも多いと考えられます。偏食の要因としてどのような原因があるのか、文献も参考にしながら分析してきました。また、現在の学園のとりくみを整理することに加え、対象となる子どもの偏食を分析し、支援してきた経過を報告します。

### (5) 歌・手遊びを通して行うトータルな発達支援

日頃の療育、保育の中で当たり前のように行われているうた・手遊び。子どもと一緒にいる現場ではあまりにも当たり前に行われているプログラムについて、私たち療育者はどのような目的を持っているか、また提供するにあたりどのような療育スキルが必要かを馴染み深い歌から考えてみました。そのなかで、うた・手遊びを楽しむための育ち・発達支援の視点を4つの軸に分け実践を通じて検討し整理してみました。